

〔第1部〕発表1

日独における
ツーリスティフィケーションの
大都市周縁部への
拡大に関する研究— 東京とベルリンにおける
「蚤の市」の観光地化に着目して—

鈴木修斗 Shuto Suzuki

東海大学 教養学部 人間環境学科 特任助教



〔第1部〕発表2

生成AIと
著作権・独創性の意識に関する
日独若手アーティスト
比較研究

照井 敬生 Takao Terui

同志社大学 客員研究員



〔第2部〕発表3

E-Sportsと
ゲーム実況における
日独間比較

根岸貴哉 Takaya Negishi

立命館大学大学院 先端総合学術研究科 授業担当講師

立命館大学 衣笠総合研究機構 客員協力研究員



〔第2部〕発表4

トランスナショナルな空間と
芸術コミュニティ:
日本とドイツ語圏における
ディアスポラの文化参加

リ イーノン Yinong Li

名古屋大学大学院 人文学研究科 博士候補研究員

日独の越境する都市空間と
デジタル創造

2026

3/11

シンポジウム 15:00~17:30 [受付開始 14:30]
交流会 17:45~19:15

(水)

※シンポジウム終了後に近隣のレストランで交流会を行います。軽食をご用意しておりますので、お気軽にご参加下さい。シンポジウムのみの参加も可能です。

ゲート・インスティテュート・ヴィラ鴨川

オンライン講演(ZOOM)同時開催

※要事前申込 / 参加費無料(会場での参加は先着30名)

お申し込み方法 山岡記念財団ホームページより
お申し込みください。 ↓↑<https://yamaoka-memorial.or.jp/event/2026/0311-01.html>

申し込み締切 2026 3/10 (火) 午前11:00迄



主催 一般財団法人 山岡記念財団 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町1番27号 ABC-MART 梅田ビル7階

Tel: 06-7636-0219 Fax: 06-7636-0212
E-mail: yamaoka-memorial@yanmar.com

共催

京都大学
KYOTO UNIVERSITY

後援

ドイツと日本
Zukunft gestalten
ともに未来へGOETHE
INSTITUT

一般社団法人 大阪日独協会

京都大学
総合研究推進本部

京都大学大学院 人間・環境学研究科 附属学術越境センター

ドイツ連邦共和国総領事館

ゲート・インスティテュート・ヴィラ鴨川



鈴木修斗 Shuto Suzuki

東海大学 教養学部 人間環境学科 特任助教

筑波大学大学院生命環境科学研究科博士後期課程修了。博士(理学)。専門は人文地理学、観光地理学。現在はツーリスティフィケーションの観点から観光と都市変容の関係を研究している。

日独におけるツーリスティフィケーションの 大都市周縁部への拡大に関する研究 —東京とベルリンにおける「蚤の市」の観光地化に着目して—

近年、世界の大都市ではツーリスティフィケーション(観光化)とよばれる現象が進展している。これまで観光の対象とされてこなかった場所に観光客が訪れるようになることで、その場所の景観、社会、経済、文化、環境が大きく変容している。本研究では、日本の東京とドイツのベルリンにおける「蚤の市(flea market)」の観光化に着目することで、日独の大都市におけるツーリスティフィケーションの可能性と課題を多面的に検討する。



照井 敬生 Takao Terui

同志社大学 客員研究員

同志社大学客員研究員および西安交通リヴァプール大学准教授。キングス・カレッジ・ロンドン博士課程修了。東アジアとヨーロッパを対象とした、文化政策とコンテンツ産業の国際比較研究が専門。

生成AIと著作権・独創性の意識に関する 日独若手アーティスト比較研究

今日、生成AIは創作活動にも広く取り入れられているが、その評価や受容は地域・文化圏によって異なっている。一方では、生成AIを創作活動を民主化する有力な道具として捉える意見があり、他方では人間の創作物に比較してAIコンテンツを不正なもの、著作権に対する脅威と捉える意見もある。日独の創作者および観客に対する調査を通じて、コンテンツ産業が盛んな両国における生成AIと芸術文化を取り巻く論争と新たな創作活動の潮流を論じる。



根岸貴哉 Takaya Negishi

立命館大学大学院 先端総合学術研究科
授業担当講師
立命館大学 衣笠総合研究機構 客員協力研究員

スポーツメディア論や、ゲーム実況の研究を進めている。『野球のメディア論：球場の外でつくられるリアリティ』(青弓社、2024年)、『クリティカル・ワード ゲームスタディーズ』『ゲーム実況』項目執筆(フィルムアート社、2025年)など。

E-Sportsとゲーム実況における日独間比較

2024年から2025年にかけてAPEX Legendsの世界大会が、ドイツと日本の両国で開催された。スポーツでは、「ホーム/アウェー」による有利・不利があることがたびたび指摘される。そこでe-Sportsにおいても、こうした要因がプレイ環境などの差異によってあるのかを明らかにしたい。また、放送形態や視聴者側からの視点も踏まえながら考察し、日本のe-Sportsおよびゲーム実況視聴文化の特異性を指摘する。



リ イーノン Yinong Li

名古屋大学大学院 人文学研究科 博士候補研究員

名古屋大学大学院で文化研究を専攻する博士候補研究員。東アジアにおける現代フェミニストアートの実践と、それが積極行動主義と交わる点に焦点を当てています。異なる文化的文脈におけるオルタナティブな空間やコミュニティの可能性を探索しており、生活と考察の拠点を名古屋に置き、小規模な実践を継続している。

トランスナショナルな空間と芸術コミュニティ： 日本とドイツ語圏におけるディアスポラの文化参加

世界各地で人の移動と再定住が進む中、ディアスポラ(海外に移り住んだ人々とその子孫)は、日本とドイツ語圏で重要な文化の担い手となっている。多文化政策に同化志向が残る一方、移民は公共参加を高めるための創造的回復力を育む。芸術活動やコミュニティプロジェクト、代替的な文化空間を通じて、アイデンティティと可視性を高め、社会参加を支えるネットワークを築く。本研究では、ディアスポラが社会課題に取り組む団体とどのように連携し、疎外された社会運動にどのように貢献しているのかについて考察する。こうした文化・芸術の活動は、構造的な排除に異議を唱えるための実践であり、集団の主体性の新たな様式を生み出す。国をまたいだ視点から、創造的回復力が文化活動への参加を広げ、コミュニティ同士の協力を進め、対話と承認のための空間を切り開くのかを検証する。最終的に、ディアスポラ研究と文化的主体性の政治に新しい視点を提供する。

特別協力



田野 大輔 Daisuke Tano

甲南大学 文学部 教授
山岡記念財団 諮問委員



吉田 純 Jun Yoshida

京都大学 名誉教授
山岡記念財団 諮問委員



ビョーン＝オーレ・カム

Björn-Ole Kamm
京都大学大学院 文学研究科 講師

【会場】

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19-3

■JR京都駅より～(所要時間 約30分)

市バス4、17、205番「荒神口」下車、徒歩5分
京都バス17番「荒神橋」下車、徒歩2分

■バス停「四条河原町」より～(所要時間 約15分)

市バス3、17、205番「荒神口」下車、徒歩5分
京都バス16、17番「荒神橋」下車、徒歩2分

■京阪電車～

「神宮丸太町」下車(5番出口)、北に徒歩6分
「出町柳」下車(2番出口)、南に徒歩8分

